

## 平和祈念展示資料館 特別展示

### 「軍人たちの描いた大陸スケッチ」連携企画

# 戦傷病者の証言～中国戦線での受傷編～

平和祈念展示資料館が九段生涯学習館で開催する特別展示との連携企画として、中国戦線で受傷した戦傷病者の証言映像を上映します。

上映場所：しょうけい館 1 階 証言映像シアター

上映期間：2023 年 2 月 8 日（水）～2 月 14 日（火）

上映時間：10：00～17：00

### 伸びきった最前線での受傷

毎時 0 分  
より上映

昭和 17 年 2 月に現役入隊。陸軍の歩兵として中国での警備と戦闘にあたるが、作戦では補給がないまま行軍を続けた。20 年 5 月、中国湖南省で敵に狙撃され下顎骨貫通銃創。すぐに後送され治療を受けたが、舌を負傷したため、食べることや話すことに不自由を感じる時がある。今でも敵に追われる夢を見ることがあるという。

### 苦勞、我慢、言ったらきりがない

毎時 11 分  
より上映

昭和 17 年、現役兵として歩兵第 130 連隊歩兵砲隊に入営。中国へ出征の後、昭和 19 年 5 月 5 日、河南省で手榴弾を改造した地雷の爆発により、乗っていた馬諸共に左足に傷を負った。破片が左足の膝の骨を砕いたものだった。その後、手術と辛いリハビリ生活を経て復員。再び故郷で農業に携わることになったものの、足の関節は未だ完治しておらず、人に話すことも憚られ、傷のことは黙ったままでいた。しばらくは痛みを堪えていたが怪我のことを語ったのは、傷痍軍人として認められた昭和 30 年頃のことであったという。

### 失意の時に届いた一通の手紙

毎時 25 分  
より上映

戦傷病者の妻の語り。昭和 14 年 9 月、夫は中国湖南省の戦場で右腕に銃弾を受ける。その一週間後、野戦病院へ運び込まれた。しかし、既に患部はガス壊疽（えそ）に蝕まれており、切断を余儀なくされた。内地還送後、師範学校に在学中の恩師（校長）から一通の手紙を受け取る。そこには傷痍の克服を祈る励ましの言葉が記されていた。この手紙に一筋の光明を見出し、その後は左手で字を書くことにつとめる。

### いつも傷痍の夫を想いつづけて

毎時 42 分  
より上映

夫は、結婚前の昭和 12 年 11 月 7 日、中国江蘇省で砲弾の破片を受けて左足を膝下から切断。復員後、義足をつけて農協に勤める夫のもとに昭和 21 年 11 月、証言者である妻が 22 歳の時に嫁いだ。後遺症から足腰の冷えに悩まされる夫の体を常に気遣い、そして夫に代わり農作業にも精を出す毎日だった。また、県の傷痍軍人会の役員として会合に参席する夫につき添い、たびたび夫婦で出かけた。

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。